



# 空知地方会職員研修

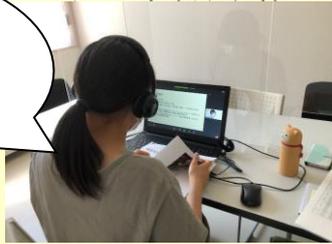
開催日 令和3年6月17日  
開催場所 雪の聖母園(リモート開催)

## 個別支援計画の為に必要なスキルとは・・・？

令和3年6月17日に、リモートにて空知地方会職員研修会が開催されました。例年であれば、各施設の職員が一堂に会し、研修の時間を共有していましたが、昨今の世情から今年度はリモートにて開催となりました。

例年とは違う形での研修会となりましたが、合わせて23名の参加がありました。

午前は相談支援員やサービス管理責任者が考える個別支援計画について、講義



## 様々な職種から見た、個別支援計画の意味や必要性

最初に相談支援事業所ピンクルムの小峰氏より、相談支援事業所の役割と、サービス支援事業者との連携の必要性を講演して頂きました。名称は聞いたことがあっても、現場で支援を行う職員との関わりがなかなか無いという事もあり、事業内容や役割を分かり易く伝えていただき、新たな発見もありました。

また、事業を運営している事業所の立場からも個別支援計画の意味や役割、支援員が携わっていく中で気を付けたい事は、分かり易く伝えて

相談支援とサービス事業者との連携

社会福祉法人 雪の聖母園  
相談支援事業所 雪の聖母園ピンクルム  
小峰 直樹

令和3年度  
空知職員研修会

サービス管理責任者から見る支援を計画的に行っていく必要性  
利用者ニーズをとらえる視点・支援員に求められる役割について  
ハロー-ENJOY つぎたて5  
サービス管理責任者 佐藤 直樹

## 具体例から個別支援計画を作成しました。



午後からは各グループごとに分かれて、支援計画の作成を実践しました。

午後からは、具体的な事例から個別支援計画の作成の手順をグループ分けした中で行っていきま

した。具体的な利用者さんの情報をもとに、この方のニーズや課題・強みについて参加者より出し合っていたいただき、それに沿って目標と取り組みをたてていくことを行ないました。

初めて会った方同士でもお互いの意見や考えを伝えあい、利用者のより良い支援をどのようにしていったらよいか活発な意見交換がありました。

時間が限られた中ではありましたが、各グループで視点や取り組みに違いが見られ、発表を聞いてまた新たな発見もでき、とても有意義な時間だったです。

直接顔を合わせず、リモートでの意見交換という

方法でしたが、今回もつながっていき

- ・経済的に安定し、定年した生活を送りたい。
- ・趣味を自由に仕事や勤務に支障がないように生活したい。
- ・仕事のスキルアップ・知識を日進月歩で。
- ・生活費を減らすことができるといい。
- ・将来結婚したい。
- ・一人暮らしをしたい。
- ・高齢になって働きたい。
- ・趣味の仲間がほしい。
- ・安定した給料を持って生活。
- ・女性の活躍の場を増やしてほしい。
- ・好きなだけ働いて収入を増やしたい。

- ・仕事に満足がある中で勤務の継続を考えていて、家庭に合わせる必要もある。満足して現状を維持、継続を希望する。
- ・生活を充実させる一助として勤務している部分がある。
- ・相手の立場になって考えることが重要。
- ・年齢や性別や定年した生活などによってどういったことであるか。
- ・家族に合わせるために勤務の継続、勉強を促していく。
- ・本職での勤務を行う。

- ・多岐であることで、気持が楽になりやすい。
- ・好きな仕事、多岐にわたることに興味を持っていく。
- ・仕事や生活のペースを自分で決めたい。
- ・仕事を続けられるように責任感を持って勤務を続けたい。
- ・行動がある。

各グループごとにニーズや課題、強みを出し合い、支援計画を考えました。

## タイムスケジュール

10:15~ 講演「相談支援とサービス事業者との連携」  
相談支援事業所 雪の聖母園ピンクルム 小峰 直樹 氏

11:15~ 「サービス管理責任者から見る支援を計画的に行っていく必要性」  
・利用者ニーズをとらえる視点・支援員に求められる役割につ

ハロー-ENJOY つぎたて5 サービス管理責任者 佐藤 直樹 氏

13:30~ 「具体例から作成する個別支援計画」